



地域から学ぶ

昨日(29日)、6年生は総合的な学習の時間で、「地域わくわくプロジェクト」という単元で、地域の方を講師として招き、地域を知る活動を行いました。総合的な学習の時間は、地域から学ぶ機会が多いのですが、コロナ禍で、その機会が激減してしまいました。今回は、交通安全協会、防犯協会、消防団、町内清掃ボランティア、帯西応援隊、青少年健全育成協議会の方々から地域での活動の様子や地域への思いを学びました。講師の方々も子供たちの素直な反応や、鋭い質問に感心されていました。以下は、子供たちの感想です。



【交通安全協会】清村さんの話を聞いて、交通安全の大切さがわかったし、危険なことをもう一度確認できたからよかったです。帯西が賞(昨年度「わくわく通信」186号参照)を取ったのを知ってとても誇りに思いました。【防犯協会】ぼくたちの安全のために3つのパトロール(夜パト・夜市パト・下校パト)などをされていて、安心して暮らせるなあと思ったし、自分もやってみたいと思った。【消防団】18歳から入れることを知り、若い頃から活動していることや、24時間対応できるように活動されていることがすごいいいと思いました。ぼくも入ろうかなあと思った。【町内清掃ボランティア】公園がきれいなのは、愛護会の人たちやたくさんの方の協力のおかげで、公園がきれいに保たれていることを知ることができました。話を聞いて私も清掃に参加したいと思いました。これからも公園のルールを守って使いたいです。【帯西応援隊】楽しいことをたくさんしてもらっているので、参加してみたいと思った。そして帯西への愛を感じた。帯西を盛り上げようとしてくださる気持ちがすごいいいと思った。【青少協】催しのお知らせのチラシから、帯西に親しみを感じることができました。わたしたちのことをとても考えて活動されていることがお話を聞いて伝わってきました。

徐々に地域学習の機会を得ることができ、とてもありがたかったです。今回は6年生にとっては初めての地域の方を講師として招いての学びとなりました。子供たちは、地域の方々から学び、今後自分たちは地域のために何ができるのかを考えていくそうです。6年生にとっては、帯西イエローの「国や郷土を愛する」心のピースが伸びた時間となったようです。地域諸団体の皆さん、ありがとうございました。

地域の方の優しさ

今週、保護者の方からのお手紙で次のようなことが書かれていました。「昨日学校から学童に向かう道中で転倒し、あごと手のひらを負傷しております。(中略)転倒して間もなく、泣いていた娘に通りすがりの男性と女性とその場で手当てをしてくださったそうです(ウェットティッシュと絆創膏)。直接お礼を申し上げることもできていないのですが、こんなことがありましたという報告に書かせていただきました。」という内容でした。「わくわく通信33号」の再掲ですが、夏目漱石は、「教育は感化なり」と語っています。これは、親や教師、そして地域の方々の生き方・考え方に子供たちは感化され、これからの人生を歩んでいくための価値観の土台をつくっていくからだと思います。これからも家庭・学校・地域と共に子供たちを育てていきましょう。